びCTF）及びフルオロキノロン剤（ERFX）に対しては全て感受性を示した。

表１　サルモネラの薬剤感受性試験（平成19年度）

薬剤	Range (μg/ml)	MIC50 (μg/ml)	MIC90 (μg/ml)	ブレークポイント (μg/ml)	耐性菌株数	耐性率 (%)
ABPC	0.5 -2	1	1	32*		
CEZ	1 - 2	1	1	32*		
CTF	0.5 - 4	1	1			
DSM	16- >512	128	>512	32	28	71.8
GM	0.25 - 1	0.5	1	16*		
KM	1 - >512	2	>512	64*	8	20.5
APM	1 - 8	4	8			
OTC	1 - 512	128	512	16	25	64.1
BCM	16 - >512	16	>512	64	7	17.9
CP	1 - 32	4	8	32*	1	2.6
CL	0.25-4	0.5	4			
NA	2 - 256	4	16	32*	3	7.7
ERFX	≦0.125 - 0.5	≦0.125	≦0.125			
SDMX	>512	>512	>512			
TMP	≦0.125 - >512	0.5	512	16*	12	30.8

（注）ABPC：アンピシリン、CEZ：セファゾリン、CTF：セフチオフル、DSM：ジヒドロストレプトマイシン、GM：ゲンタマイシン、KM：カナマイシン、APM：アプラマイシン、OTC：オキシテトラサイクリン、BCM：ビコザマイシン、CP：クロラムフェニコール、CL：コリスチン、NA：ナリジクス酸、ERFX：エンロフロキサシン、 SDMX：スルファジメトキシン、TMP：トリメトプリム
＊: CLSIに規定されたブレークポイント

（2）カンピロバクター

カンピロバクターは、供試された331検体中124検体（37.5%）から223株（肥育牛由来27株、肥育豚由来64株、採卵鶏由来68株及びブロイラー由来64株）が分離された。菌種の内訳は、*Campylobacter jejuni* 132株及び*C. coli* 91株であった。肥育牛、採卵鶏及びブロイラーからは主に*C. jejuni*が、肥育豚からは*C. coli*が分離された。

分離された223株の薬剤感受性試験成績を表2に示した。供試した9薬剤のうち7薬剤（ABPC、DSM、EM、OTC、CP、NA及びERFX）に対する耐性株が認められ、それらの耐性率は9.9～54.7%であった。菌種別の耐性率は、EMでは*C. jejuni* 0%及び*C. coli* 33.0%であった。ERFXでは*C. jejuni* 25.0%及び*C. coli* 53.8%であった。

表２　カンピロバクターの薬剤感受性試験（平成19年度）

薬剤	Range (μg/ml)	MIC 50 (μg/ml)	MIC 90 (μg/ml)	ブレークポイント (μg/ml)	耐性株数	耐性率 (%)
ABPC	≦0.125-64	8	16	32	22	9.9
DSM	≦0.125->512	1	>512	32	49	22.0
GM	≦0.125-4	0.5	1			
OTC	≦0.125-512	16	256	16	122	54.7
CP	2-128	4	32	16	35	15.7
EM	≦0.125->512	2	256	32	30	13.5
NA	2-256	8	256	32	85	38.1
ERFX	≦0.125-64	≦0.125	8	2	82	36.8
SDMX	16->512	>512	>512			

（注）EM：エリスロマイシン

（3）腸球菌

腸球菌は、一般腸球菌（*Enterococcus* spp.）の選択培地による分離では、供試された269検体中227検体（84.4%）から424株（肥育牛由来102株、肥育豚由来97株、採卵鶏由来118株及びブロイラー由来107株）が分離された。

分離された一般腸球菌424株の薬剤感受性試験成績を表3に示した。調査薬剤のうち10薬剤（ABPC、DSM、GM、KM、OTC、EM、LCM、ERFX、CP及びAVM）に対して耐性株が存在し、その耐性率は一般腸球菌で0.5～47.4%であった。このうち81株（肥育牛由来13株、肥育豚由来19株、採卵鶏由来31株及びブロイラー由来19株）が*E.faecium* として分離され、VGMに対しては、すべて感受性株であった。

一方、バンコマイシン（VCM）添加培地を用いた選択分離においては、269検体中6検体（2.2%）から10株が分離された。これらの株は、*E.gallinarum*及び*E.casseliflavus*で、VCMのMIC値はブレークポイント以下であったことからいずれも感受性株と判断された。

表３　一般腸球菌の薬剤感受性試験

薬剤	Range (μg/ml)	MIC50 (μg/ml)	MIC90 (μg/ml)	ブレークポイント (μg/ml)	耐性菌株数	耐性率 (%)
ABPC	≦0.125-64	1	2	16*	2	0.5
DSM	4-≧512	64	≧512	128	92	21.7
GM	1-≧512	8	16	32	39	9.2
KM	≦0.125-≧512	32	≧512	128	77	18.2
OTC	≦0.125-≧512	8	256	16*	201	47.4
CP	1-128	8	16	32*	26	6.1
BC	0.25-≧512	64	256			
EM	≦0.125-≧512	0.25	≧512	8*	99	23.3
LCM	≦0.125-≧512	16	≧512	128	93	21.9
ERFX	≦0.125-16	1	2	4	33	7.8
AVM	≦0.125-≧128	2	8	16	37	8.7
SNM	0.25-16	1	2			
VCM	≦0.125-8	1	2	32*		
VGM	≦0.125-16	1	4			
	（≦0.125-16）	（1）	（4）			
NHT	≦0.00099-≧32	0.0078	0.0156			

（注）LCM：リンコマイシン、SNM：サリノマイシン、BC：バシトラシン、VGM：バージニアマイシン、VCM：バンコマイシン、AVM：アビラマイシン、NHT：ノシヘプタイド
VGM欄の（　）内の数値は、*E.faecium*のみを抽出して集計した場合の数値
＊: CLSIに規定されたブレークポイント

（4）大腸菌

大腸菌は、供試された264検体中242検体（91.7%）から、450株（肥育牛由来130株、肥育豚由来106株、採卵鶏由来112株及びブロイラー由来102株）が分離された。